

年間第 17 主日 マタイ 13 : 44~46

短い福音の中に 2 回も「大喜びして、持ち物をすっかり売り払って、天の国の宝を買う」という言葉があります。思い当たる体験があるでしょうか？ 私の場合、12 年勤めた会社を辞めてイエズス会に入会する時がそうでした。今日は、その時の気持ちを綴った日記からご紹介します。

2000 年 1 月 2 日 (イエズス会入会のための 5 人の面接は終わっていて、結果を待っている状態でした。当時勤務地は静岡県富士市でしたが年末年始は千葉の実家に帰省していました。)

私はこれからどう決断していくのだろうか？ 将来を決めていくのに、何を頼りにしていくのだろうか？ 最も大切なことは、主を信頼すること。もともと私一人の力では、司祭の召し出しは不可能なのだから、マリアの「みことばの通りこの身になりますように」という信仰告白を私も唱えよう。主の望みと私の望みが 1 つになり、導いてくださるように、主なる神に祈りを捧げよう。信仰とは、裸になること、体当たりで行くこと、なけなしのものを全て神に譲り渡してみよう。神の愛が豊かに注がれれば、神に自分を賭けた甲斐があったというもの。

1 月 3 日

この世で一番美しいもの。それは「神に向かう心」。修道生活に持っていくものの中で、一番必要なものは「神に向かう真っ直ぐな心」だと思う。

サラリーマン生活は、会社の利益とお客様の利益を追いつけた 12 年だった。社会の評価・会社の評価を寄せ集めても、これ以上、人間として成長できない気がしてきた。

修道生活は、「イエズス会を通して神様に自分を譲渡していくこと」

親が望む結婚生活がいいのか？ 会社に残るのか？ と考えるより、「どうか神様のご意志が私に働きますように」と願おう。

主よ、私はあなたに全てを委ねます。未練が残らないように、私を癒しに来てください。今の気持ち、心の平和がより深く、豊かに、そして揺らぐことがないようにしてください。そして、家族にも恵みを与えてください。長男としての至らなさを別の形で報いられるように計らってください。

1 月 7 日 (勤務地の富士市に入会許可が届きました)

イエズス会入会許可がとうとうおりた。とても嬉しく思いますが、これまでやり残していた宿題をこれから始めるような新鮮な気持ちが湧いてきました。両親に理解してもらうための努力が残されていますが、神様、力を与えてください。会社で働く残り少ない時間を大切にしていきたい。

こんな箸にも棒にもかからない私が、神様から司祭になるように呼んでくださっているかもしれない。言い知れない喜びを感じます。「神様と人に仕える生き方をしたい」やっとその道が見えてきました。これまでお世話になった、会社の方、お客様、教会の方、そして何よりも私を産み育ててくれた両親への感謝の気持ちを新たにします。

主よ、私の願いを聞き入れてくださりありがとうございます。これからますます、修道生活を通して、あなたに仕え、神の愛を証できるように、私を支えてください。私たちの主、イエス・キリス

トによって。アーメン

天の国は、見つけた時に、大喜びする、そしてそれまで持ってきたものを手放すことで成就します。
どうか、私たちのうちで実現しますように。